

## P 36 [タイトル]

西洋人参をベースとした健康茶が脂質  
吸収に及ぼす影響

○太井秀行、端口佳宏、中川光司、渡辺康光(赤穂化成株式会社)、菊池佑二(独立行政法人 食品総合研究所マイクロチャネルアレイ工学チーム)、野崎豊(ノザキクリニック)

[目的] 近年の日本では食生活の欧米化により生活習慣病の要因である肥満が増加し、問題となっている。食事を摂取することでトリグリセリド、コレステロールは、脂肪酸としてカイロミクロンを介して末梢組織に輸送される。脂肪酸が必要以上に存在すると中性脂肪として貯蔵され脂肪の蓄積につながると考えられている。

本研究では「天海の健参茶」の摂取が①ヒトの血中カイロミクロン量の上昇に及ぼす影響②実験動物の脂肪の蓄積に及ぼす影響を測定したので報告する。

[方法] 高知県室戸沖の海洋深層水と西洋人参やその他の茶葉を用いて「天海の健参茶」を調製した。比較試料として水道水を用いた。

①本試験の内容を説明し、インフォームドコンセントを得られた16名(男性:11名、平均年齢34歳、女性:5名、平均年齢30歳)に高脂肪食と同時に各サンプルを250ml飲用させ、飲用前と飲用1, 2, 5時間後に採血を実施し、血液成分の測定を実施した。

②実験動物に高脂肪食と同時に各サンプルを4週間自由摂取させ、その後解剖し脂肪重量、血清レプチン量を測定した。

[成績] ①「天海の健参茶」の飲用により16名中12名(75%)で血中カイロミクロン量の上昇の抑制(1時間34.9%、2時間19.6%、5時間37.2%)が確認された。

②水道水飲用群と比較して、「天海の健参茶」飲用群では脂肪重量(水道水飲用群を100%として47.5%減少)、血清レプチン量(水道水飲用群を100%として55.8%減少)は減少した。

[結論] 「天海の健参茶」の摂取は、高脂肪食の摂取による実験動物の脂肪重量、血清レプチン量の上昇を抑制すること、及びヒトの食後における血中カイロミクロンの上昇を抑制することを示唆した。この結果より、「天海の健参茶」の摂取は、肥満の予防に有用であると考えられる。